

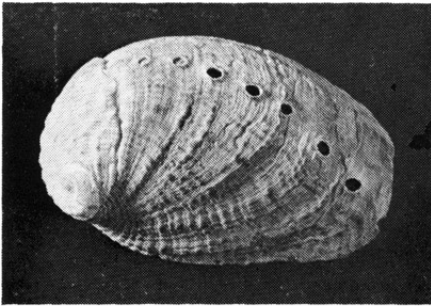
黒潮の海に棲む貝類

磯部一洋 (環境地質部) ・ 正井義郎 (元所員)
Ichiyo ISOBE Yoshiro MASAI

貝殻は 海草や木の葉などに比べて 堅く溶け難いため 地層の中に保存され易く 貝化石として産出することは説明するまでもありません。また 半島や島などの小規模な砂浜や砂粒の生産され難い海岸では 貝殻片が現成海浜堆積物の砂の大半を占めることも珍しくはありません。地域によっては海成層の主要な構成物質や堆積環境の指標になるであろう貝類 とりわけ現棲種の貝類について 皆様も今以上に関心を持たれ海岸へ採集などに出かけられてはいかがでしょうか。太平洋に浮かぶ三宅島は 伊豆諸島の中央付近に位置し 黒潮に洗われる温暖な海洋性気候下にあります。照葉樹が繁茂し 160 種にのぼる小鳥達の楽園でありバードアイ

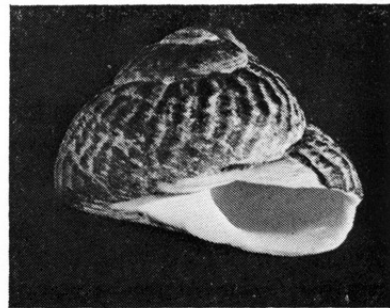
ランドとも呼ばれています。約32kmの円形に近い海岸線は 青い海に囲まれ イセエビ トコブシなどが豊富にとれ テングサの産地としても有名です。今回島の南東部海岸で採取された南方系統に属する貝類やサンゴを写真で紹介しましょう。これらの貝類などは いずれも暖かい海に棲息する種類で 中には奄美・琉球諸島以南に棲むものも少なくありません。東京から僅か南へ180km²の距離にありながら このように亜熱帯的な貝類が棲んでいるのです。

貝類などの学名・棲息範囲・棲息深度および底質環境については 筆者らによる本文中の第1表を参照されたい。



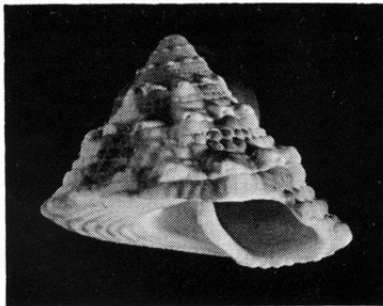
1. フクトコブシ (×1.75)

伊豆三宅島ではコナガレまたはコナガイと呼ばれ 産業的に極めて重要な貝です。毎年 25~30トン位漁獲されています。



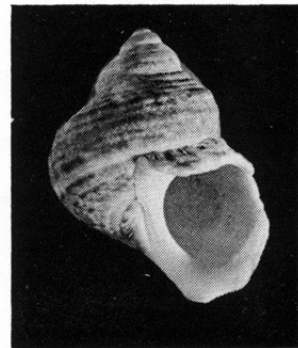
2. ヒメクボガイ (×2.3)

殻表にある細く斜めの筋 (縦肋) が特徴です。



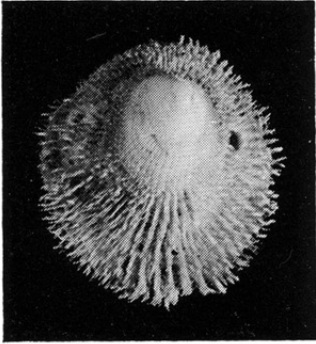
3. ハクシャウズガイ (×2.2)

拍車状の褐色の斑紋が美しい。

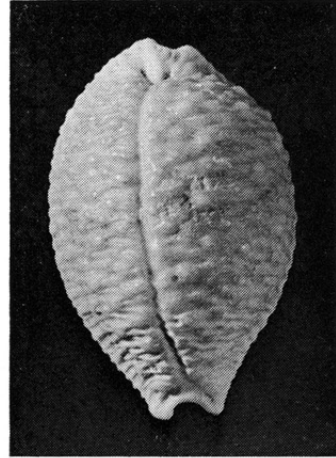


4. リュウテンサザエ (×2.1)

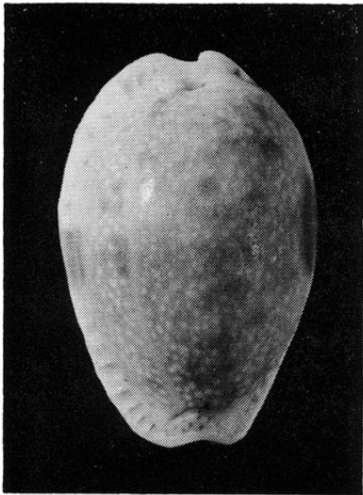
食用にするサザエに比べて 著しく小型の貝です。



5. スズメガイ (×2.3)
粗い毛の生えた扁平な巻貝類です。

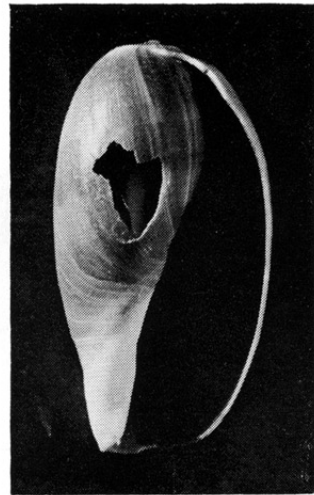
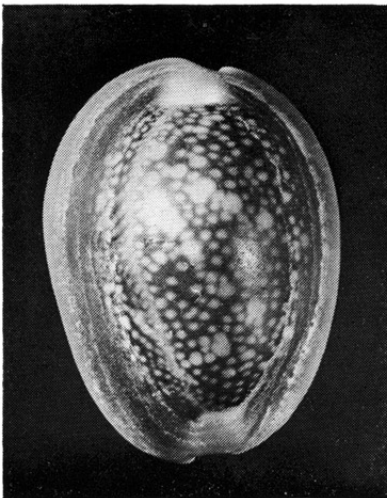


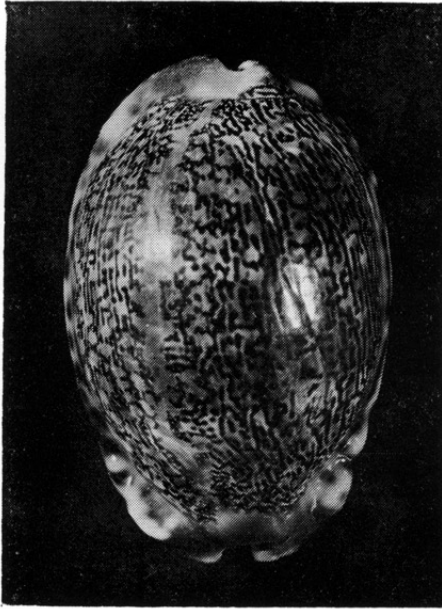
6. イボダカラガイ (×1.9)
殻表に多数のイボがある宝貝の一種です。



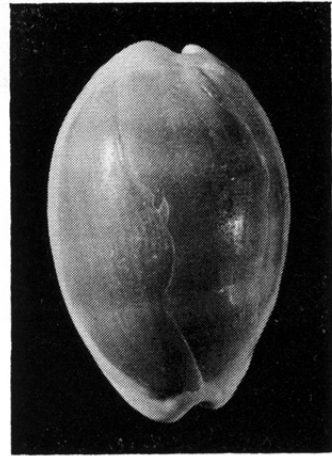
7. コモンダカラガイ (×2)
背面に小紋が密集します。

8. ハナマルユキガイ (左×1.9 右×2.2)
学名は蛇の頭を意味します。 左は成貝 右は幼貝です。

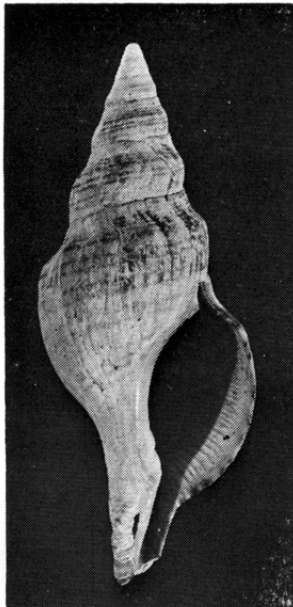




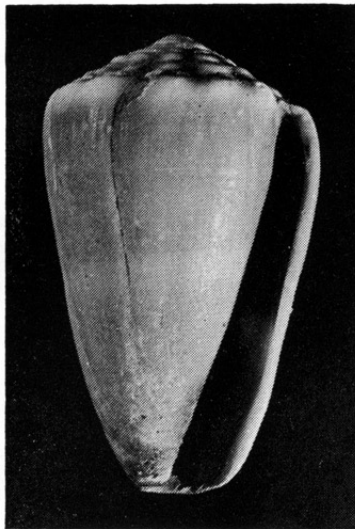
9. ヤクジマダカラガイ (×1.1)
 重厚で 背面は梵字模様でうめ尽くされています。



10. クチムラサキダカラガイ (×1.6)
 背面には4~5本の帯があり 殻口
 (両唇面)は紫色をしています。



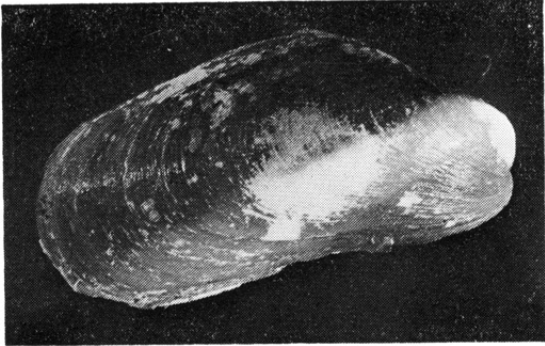
11. ツノキガイ (×0.95)
 貝の上半部(ら塔)は細く高い。



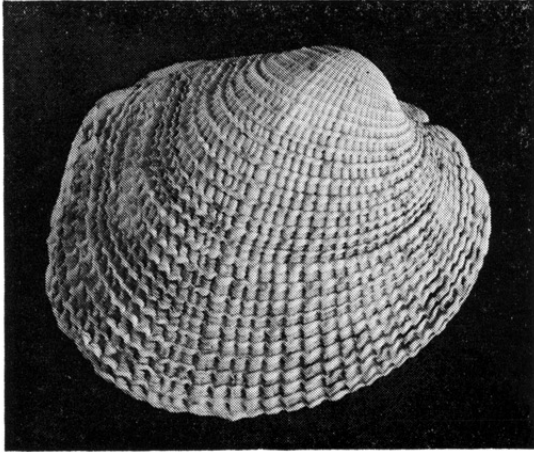
12. イボシマイモガイ (×1.65)
 貝の肩にはコブ(結節)がならび つぶつぶ(果粒)の列は下ほど密です。



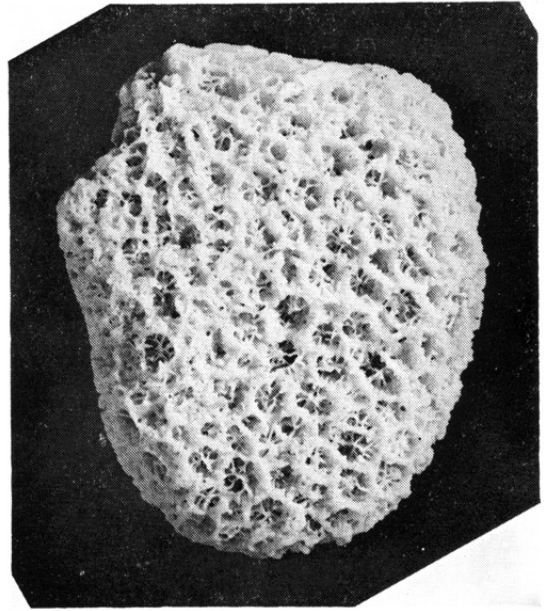
13. マダライモガイ (×2.7)
 黒斑の帯が著しい芋貝の一種です。



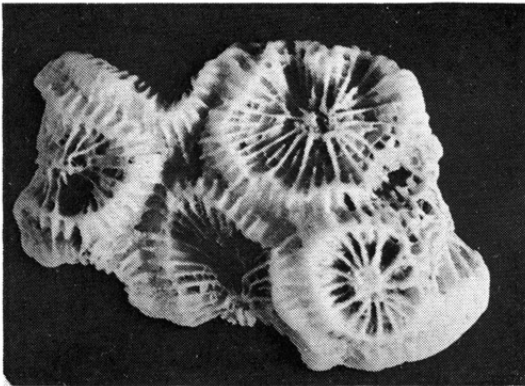
14. リュウキュウヒバリガイ (×1.9)
殻が細長く後方へ広がり 細い縞目 (輪脈) が発達します。



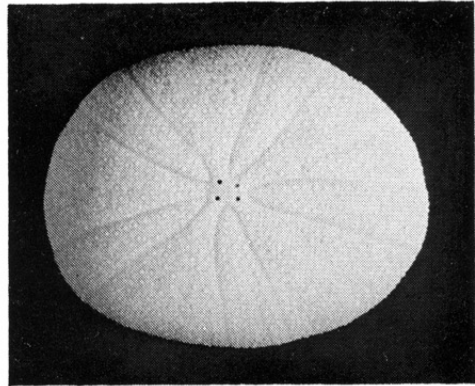
15. アラスノメガイ (×1.55)
形は丸い四角形で 殻表は和名のとおろ粗い布目状をなしています。



16. アワサンゴ (×1.7)
直径3~10数 cm の群体をなすサンゴです。



17. キクメイシ (×1.8)
造礁サンゴの代名詞とも言われ 水深3~15m の伊豆半島以南の太平洋岸に棲息しています。



18. タマゴウニ (×2)
ほぼ卵形の小型ウニの一種で 奄美諸島以南のサンゴ礁に普通に見られます。